

2015年11月28日

お知らせ

実践女子大学 人間社会学部
実践「ペルソナ」研究会

実践『ペルソナ』通信 (No.15)

「女子大生の将来設計」に関する調査結果

～出産後も働きたい人は3割弱 働きたいならば正社員希望～

実践女子大学人間社会学部 「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生を対象に、「将来設計」についてアンケート調査を実施しました。有効回答者数は63サンプルでした。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計科学（担当:竹内光悦）」、「経営学（担当:篠崎香織）」、「マーケティング（担当:斎藤明）」の3つの分野のゼミ生を中心に組織され、自分たちの消費活動、ライフスタイルをはじめ「実践女子大生が自分たち自身」を科学する研究会です。

総括

渋谷キャンパスに所属する実践女子大生の将来設計の実態について、63サンプルの実践女子大生から回答を得た。

結婚願望については、全体の78%の人が将来結婚したいと考えている。将来結婚したいと回答した人に、現在学生として異性と交際を始める際に結婚を考えるか調査したところ、1・2年生では3割程度であった。しかしながら、3年生では半数の人が結婚を意識して交際すると回答していた。このようなことから、同じ大学生でも学年が上がるとともに異性ととの交際に対して意識も変化していく傾向が見受けられた。

結婚相手に求める条件においては、最も重視するものとして「価値観」があげられた。次いで「優しさ」、「経済力」であり、最も少なかった回答が「ルックス」であった(図3)。よって、女子大生は外見よりも価値観の一致や夫の優しさ、経済力といった内面を重要視していることがいえる。

結婚後もしくは出産後のキャリア設計に関しては、結婚・出産後も仕事を続けたいと回答した人は全体の約44%で最も多かった。その中で、出産後の雇用形態を尋ねたところ、7割の人が正社員を希望していた(図5-2)。働きたいならば、正社員として安定やキャリアアップを望んでいる人が多いことがうかがえる。しかしながら、全体では結婚後もしくは出産したら退職したいと考える人が半数以上いるため、仕事と子育てを両立したいと考える人よりも、結婚もしくは出産後は家事に専念したいと考える人の方が多くいることがわかった(図5-1)。この結果は、女性は家事をすべきだといった日本特有の概念がまだ根付いていることが考えられる。一方、仕事と結婚の両立は幸せにつながるかどうかは、どちらともいえないという意見が最も多かったことからみると、仕事も結婚も経験したことがない女子大生には、まだ仕事と結婚におけるイメージがわからないともいえる(図8)。

調査結果のポイント

(1) 現在交際を始めるときに結婚を考える人は4割、考えない人も4割

交際を始めるときに結婚を「考える」「やや考える」と回答した人は全体の38%であり、結婚を「考えない」「あまり考えない」と回答した人は全体の40%と、ほぼ同じ比率の回答数を得た(図2)。また、学年別に比べてみると、3年生が「考える」「やや考える」と回答する人が過半数を占めており将来を見据える人が増え始めていることが読み取れる(図2)。

(2) 結婚相手に求めるものは価値観や経済力

結婚相手に求める条件として1番重視するものは「価値観」と回答した人は約半数であった(図3)。続いて「経済力」と「優しさ」も多くの人々が1位や2位にあげていたことから、多くの女子大生は「価値観」、「経済力」、「優しさ」を重視することがいえる。近年の離婚率上昇や、景気が悪いといわれ続けている中で生活していることなど、さまざまな社会的背景も影響しているのではないだろうか。また、ルックスよりも価値観や優しさなどの性格面、経済力を重視するのではないかとすることも見受けられた。

(3) 出産後も働きたいと考える女子の7割が正社員希望

結婚・出産後も働きたいと回答した人(図5-1)のうち、70%以上が正社員を希望していることがわかった(図5-2)。この結果から、働き続けるならば雇用契約や経済的にも安定している正社員として働きたいと考えている回答者が多いことがいえる。また、この結果の背景として近年女性の社会進出が拡大していることも関連があるのではないだろうか。

(4) 仕事と結婚を両立するために最も重要なのは「夫の協力」

仕事と結婚の両立について、「両立できる」「なんとか両立できる」と回答した人が全体の56%であった(図6)。そして、仕事と結婚を両立させるための最低条件は「夫の協力(43%)」と回答した人が1番多かった(図7)。この結果は、まだ仕事も結婚もしたことがない学生の回答結果である。そのため、実際に社会で仕事と結婚をしている人への実態調査も行ってみたい。

(5) 母親の職業は専業主婦・パートが9割

回答者が小・中学生の頃、母親が専業主婦であったと回答した人は、全体の48%であった(図9-1)。一方、母親が働いていた人は全体の51%であり、専業主婦を少し上回った。しかしながら、働いていた母親のほとんどが「パート・アルバイト」であり、正社員として働いて母親は全体の3%しかいなかった。回答者の母親世代では、子育てをしながら働くといっても正社員としてではなく、両立のしやすい「パート・アルバイト」が主流であったことが見受けられる。

調査結果について

<調査概要>

1. 調査対象： 実践女子大生1年～3年生(渋谷キャンパス在生)
2. 調査方法： 質問紙によるアンケート
3. 調査期間： 2015年11月12日
4. 有効回答者数： 63人
5. 回答者の属性：【実践女子大学生：学年】1年：38%、2年：27%、3年：35%

【本調査担当チーム】

実践女子大学 人間社会学部「ペルソナ」研究会

3年 新井美怜

3年 大崎綾乃

3年 岸本萌美

3年 鳥居由佳子

3年 松川早希

3年 鈴木千晶

調査結果データ

- (1) 将来結婚したいか尋ねたところ、「結婚したい」と回答した人は全体の76%、「結婚したくない」と回答した人は5%、「どちらともいえない」と回答した人は19%であった（図1）。結婚したくないと答えた人に結婚したくない理由を聞いたところ「結婚に対するイメージがわからない」・「経済的不安」によるものであった。

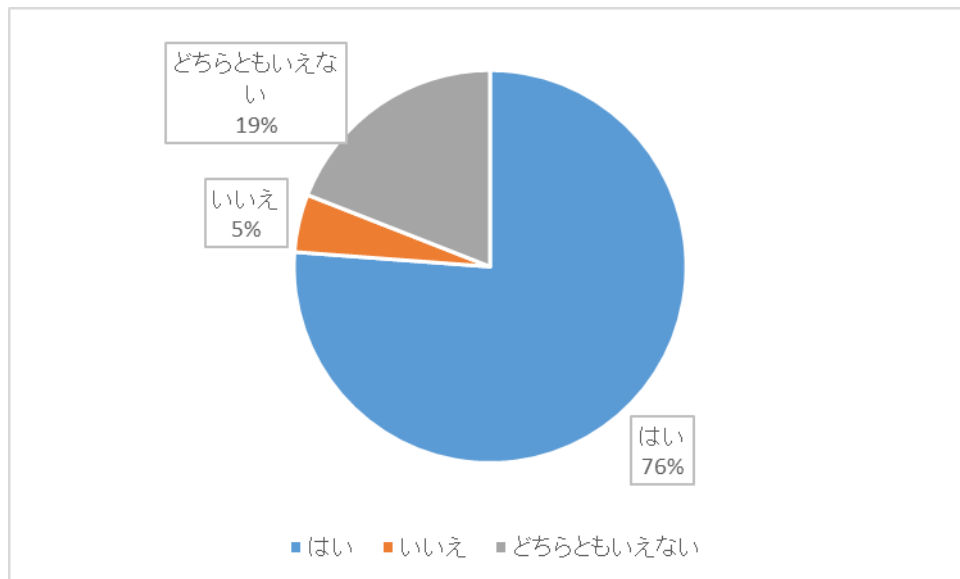


図1. 将来結婚したいか (N=63)

- (2) 現在、学生として異性と結婚を考えて交際を始めるかについて尋ねたところ、1年生では「考える」「やや考える」と回答した人が30%弱、2年生では30%強といったところであった。しかしながら、3年生になると「考える」「やや考える」と回答する人が50%を超える結果が出た（図2）。このような結果から、同じ大学生であっても、年を重ねるごとに結婚への意識が高まっていくということが見受けられる。また、「考えない」「あまり考えない」と回答した割合から見ても、1・2年生では「考えない」「あまり考えない」と回答した人が半数ほどいるが、3年生では30%もいなかった。

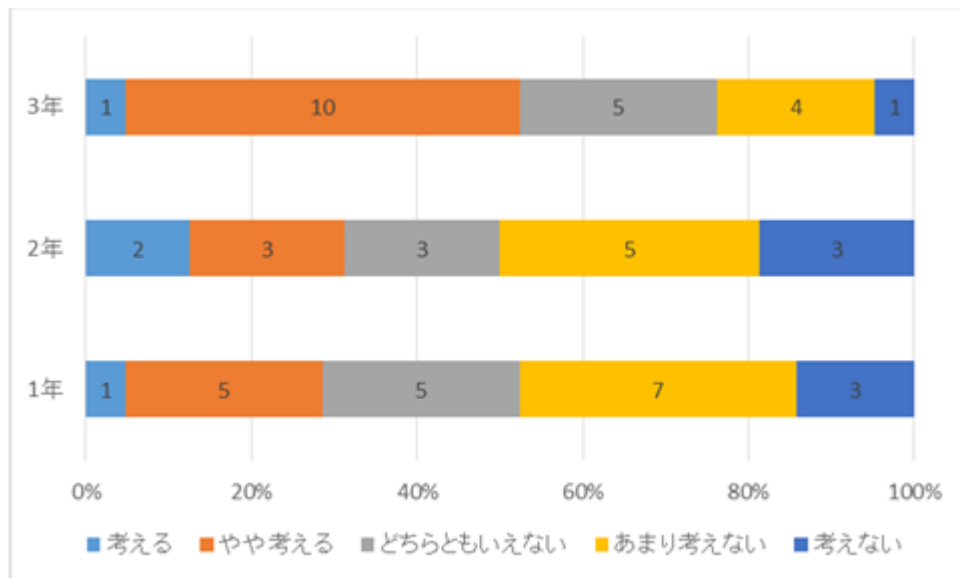


図2. 現在交際を始めるとしたら結婚を考えるか (N=59)

(3) 結婚相手に求める条件を1位から3位まで順位をつけて尋ねたところ、59人中28人もの人が1位を「価値観」と回答した。2番目に「優しさ」(12人)、3番目が「経済力」(10人)であった(図3)。よって、多くの人が経済力や優しさよりも、価値観の一致を求めていることがわかった。また、結婚相手に求める条件の2位として回答が多くなっているものが、「経済力」と「優しさ」であった。このようなことから、「価値観」「経済力」「優しさ」の3点が、女子大生が重要視する条件であることが読み取れる。それに対して、一般的に男性が気にしていると思われる「ルックス」を1位、2位と答える人は合わせても6人とごくわずかであった。「趣味の共有」もそこまで重視する人は少ないようである。

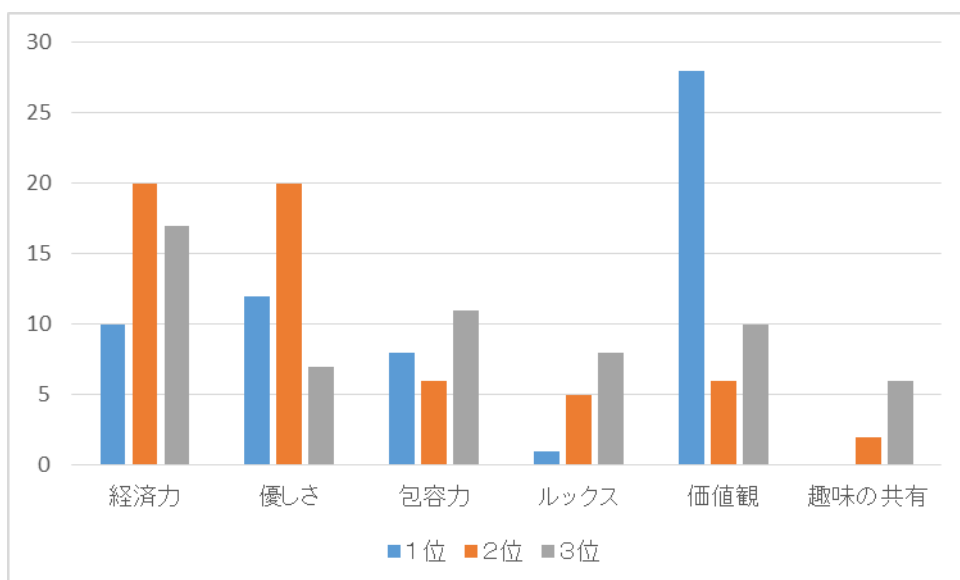


図3. 結婚相手に求める条件 (N=59)

(4) 結婚費用のための貯金は必要だと思うか尋ねたところ、「必要だと思う」と答えた人は全体の92%、「必要ではない」と答えた人は0%、「どちらともいえない」と答えた人は8%であった(図4-1)。

また、必要だと回答した人に現在将来のために貯金をしているか尋ねたところ、「貯金している」と答えた人は全体の 32%、「貯金したいと思うがしていない」と答えた人は全体の 44%、「貯金していない」と答えた人は 22%であった（図4-2）。このような結果から、まだ結婚が身近ではない学生にとって、結婚するにあたり費用が必要だとは思うが具体的にどのくらい必要か明確ではないため、結婚のために貯金をしている人は少ないと予想される。

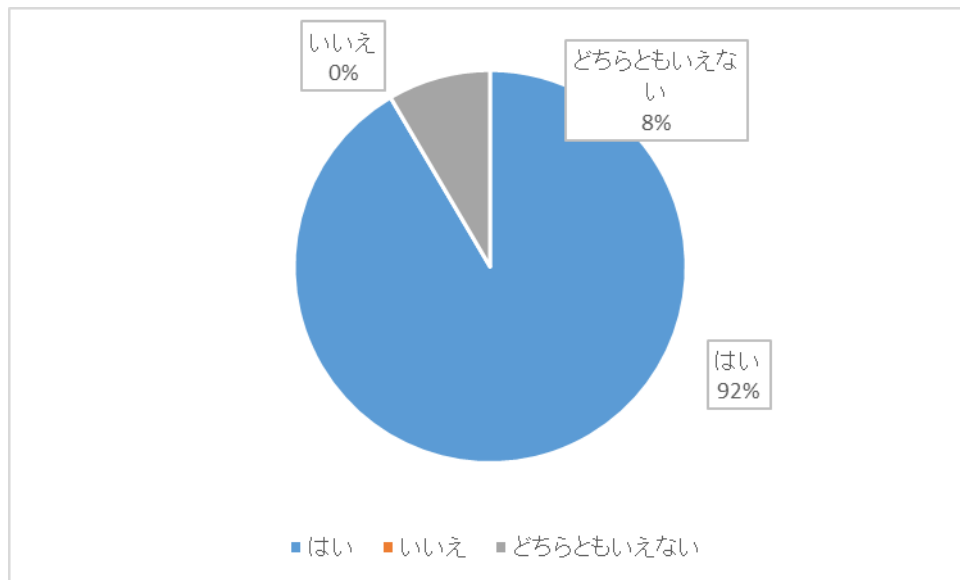


図4-1. 結婚費用のための貯金は必要か (N=59)

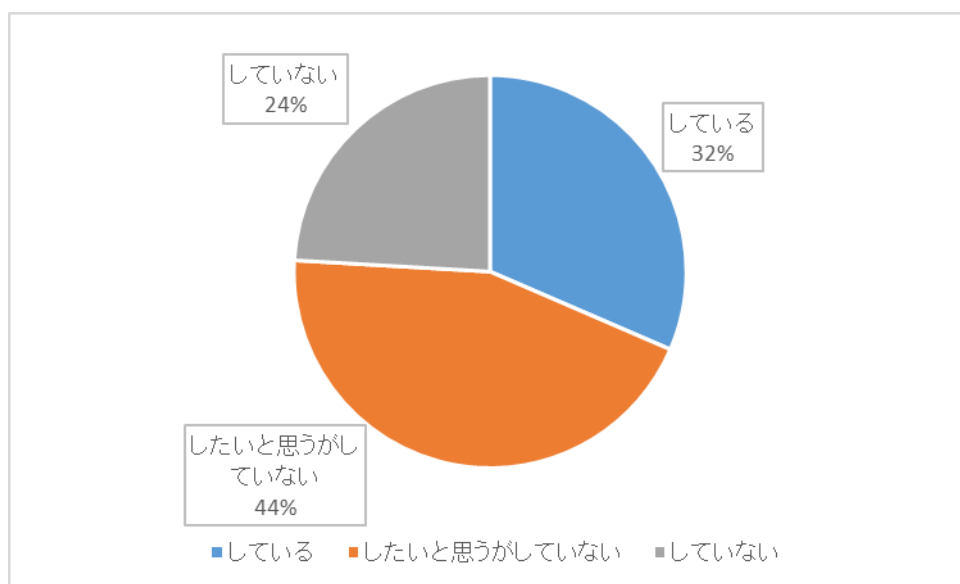


図4-2. 将来のために貯金しているか (N=54)

(5) 結婚後または出産後も仕事を続けたいと思うかと尋ねたところ、「結婚・出産後も仕事を続けたい」と回答した人が全体の44%と最も多く、次いで「出産後は辞めたい」と回答した人が39人、「結婚後は退職したい」「出産はせずに働く」との回答が少数で続く形となった（図5-1）。このような結果から、将来のキャリア設計として家庭と仕事のどちらかを選ぶのではなく両方を選択したいという傾向がみられる。一方割合としては、「出産後は退職したい」という回答も次いで多くあり、出産したからには子育てに専念したいという考え方も根強くあることも分かった。

また、「結婚・出産後も働きたい」を選択した回答者（26人）に、結婚・出産後にどのような雇用形態で働きたいかを尋ねると、全体の73%が正社員と回答した。次いで「パート・アルバイト」（23%）であり、それ以外は少数または0人という結果となった（図5-2）。このような結果から、働き続けるならばやはり正社員という考えが多数であることがわかった。また、正社員以外でみると契約社員や派遣社員といった雇用形態よりも、パート・アルバイトの方が希望は多いことがわかった。

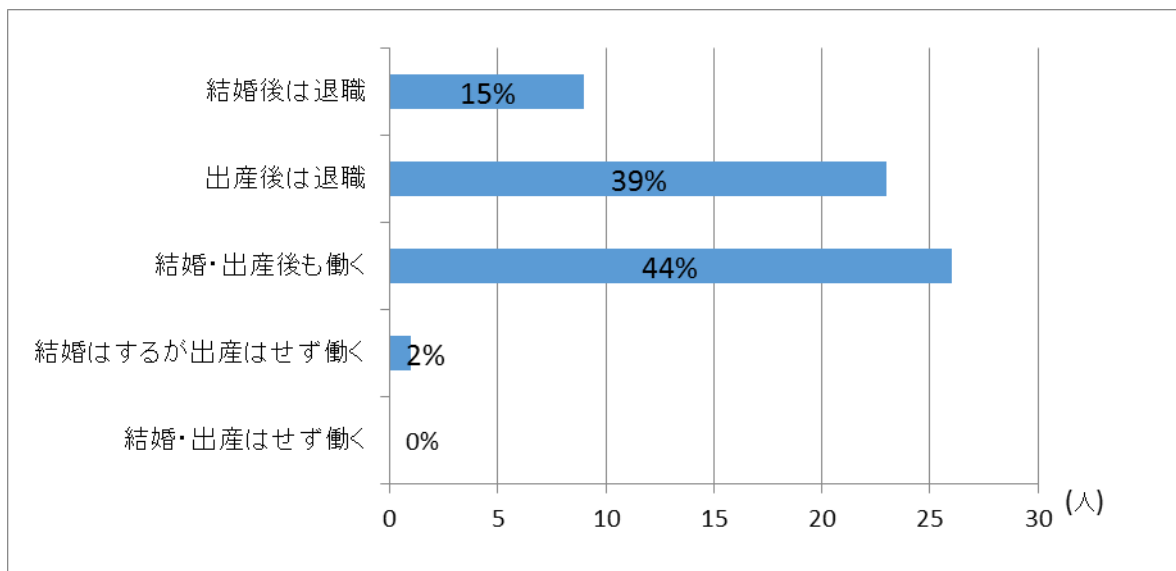


図5-1. 結婚・出産後のキャリア設計 (N=59)

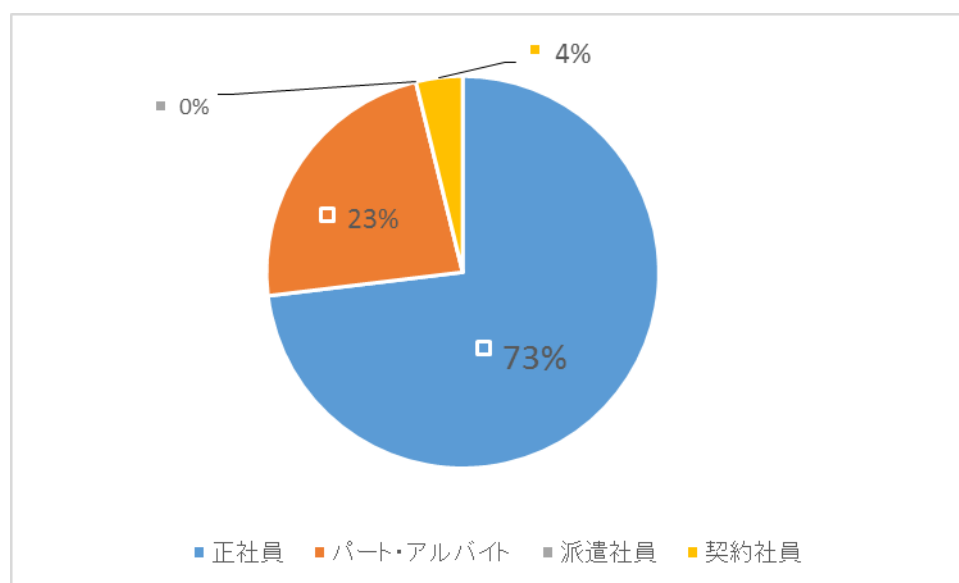


図5-2. 結婚・出産後の理想の雇用形態 (N=26)

(6) 仕事と結婚の両立は可能であると思うか尋ねたところ、全体の約6割が「できる」「なんとかできる」と回答した（図6）。また、「どちらともいえない」と回答した人が全体の約2割を占めている。このような結果から、仕事と結婚の両立を前向きにとらえている人が多いことが伺える。しかし、どちらともいえないと回答した人も含めまだ仕事も結婚もしたことのない学生にとって、仕事と結婚の両立がどこまで困難であるのかが想像できないという理由から、このような結果になったと予想することもできる。

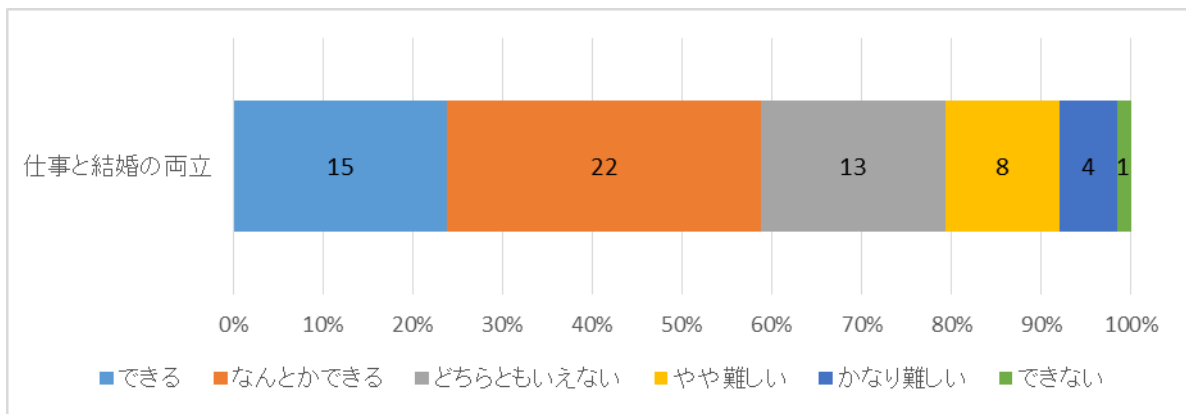


図 6. 仕事と結婚の両立 (N=63)

(7) 結婚と仕事を両立させるための最低条件について尋ねたところ、最も多かった回答が「夫の協力(27人)」であった。続いて「職場の環境(23人)」、「経済的余裕(11人)」、「親の協力(2人)」という順番になった(図7)。妻と夫が互いの仕事に理解を示し、家事は夫婦で分担してこなすことが結婚と仕事の両立につながるのではと考える人が多いということが伺える。また、職場の環境が悪く残業が多かったりすると、夫婦のコミュニケーションをとる時間が少なくなるため夫婦仲が悪くなることも考えられるので、結婚と仕事の両立には「職場の環境」も重要になってくると思われる。

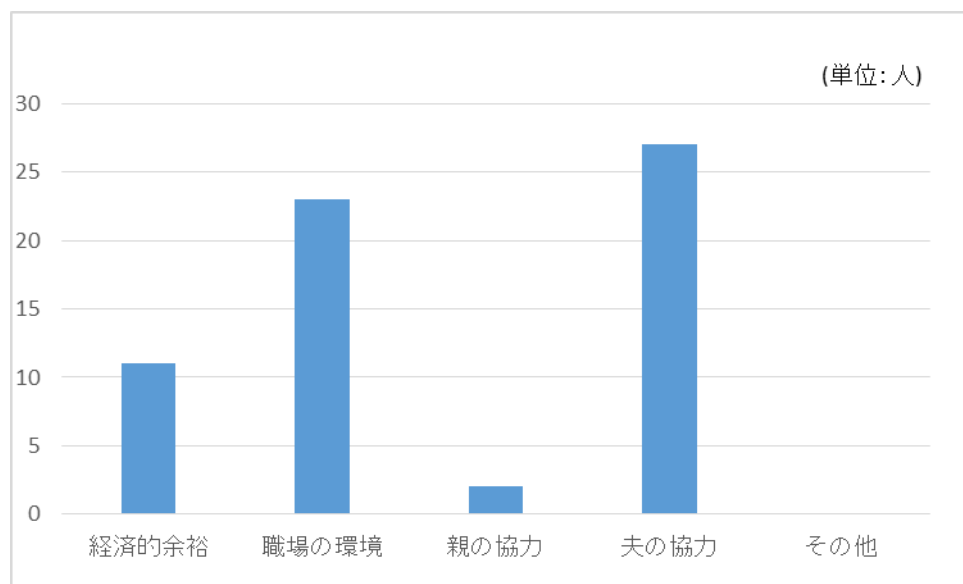


図 7. 結婚と仕事の両立の最低条件 (N=63)

(8) 結婚と仕事を両立することが幸せにつながると思うかと尋ねたところ、「どちらともいえない」と回答した割合が最も高かった(43%)。2番目に「やや思う」(35%)であり、次いで「とても思う」(14%)であった。また、「やや思わない」(2%)と「思わない」(6%)は合わせても全体の10%以下であった。このようなことから、現時点ではまだ結婚と仕事の両立が幸せにつながるかどうかは判断できない人が多いことがわかった。しかしながら、「とても思う」「やや思う」と回答した人を合わせると全体の約半数を占めているため、結婚と仕事の両立について良いイメージを持っている人が多いことが伺える。

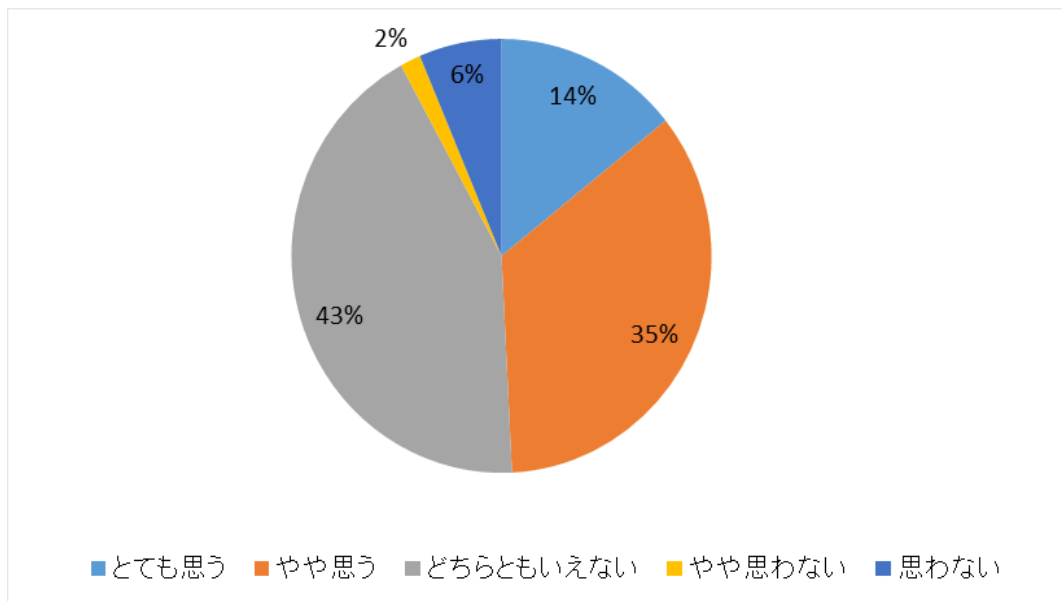


図8. 結婚と仕事を両立することが幸せにつながるか (N=63)

(9)小・中学生の頃母親がどのような働き方をしていたか尋ねたところ、1番回答が多かったものが「専業主婦」であった(48%)。次に多かった回答が「パート・アルバイト」であった(43%)。そして、3番目が「正社員」である(8%)。このような結果から、回答者が小・中学生のころに働いていた母親(51%)と、専業主婦として家で働いていた母親(48%)の割合は、あまり変わらないことがわかった。しかしながら、働いていた母親のほとんどはパート・アルバイトとしての雇用形態であり、正社員として働いていた母親は少数であることもわかった(図9-1)。

また、上記の結果を基に母親の働き方と回答者自身の結婚・出産後のキャリア設計における関係を比べてみたところ、小・中学生のころ母親が働いていた人の半数は、結婚後・出産後も仕事を続けたいと回答していた。一方、母親が専業主婦であった人は、結婚後もしくは出産後には仕事を辞めたいと回答した人が過半数以上いたことがわかった(図9-2)。

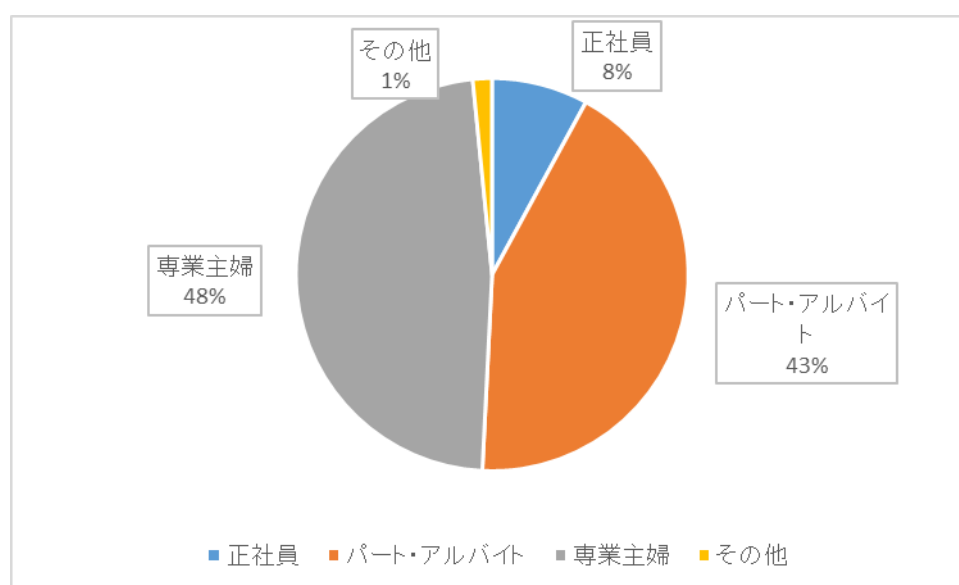


図9-1. 小・中学生の頃の母親の働き方 (N=63)

